

社会性を育む遊びの充実に関する研究[†]

—児童館における遊びの実態からの考察—

福田早紀人*・川島 芳昭*

宇都宮大学教育学部*

本報告は、子どもの社会性を育む遊びの充実の必要性を児童館での遊びの実態から考察した結果を報告することを目的とする。そのために、児童館の提供する遊びの実態を空間と仲間の観点から調査した結果と社会性の育成との関係を検討した。調査の方法は、児童館に来館した児童を対象に児童館以外での遊び並びに児童館での遊びについての実態調査によって行った。その結果、児童館が遊びのための空間や仲間を提供し、子どもの社会性を育む施設として有益であることが示唆された。

キーワード：社会性、遊び、三間、児童館、実態調査

1. はじめに

人が社会生活を営むためには、社会性が必要である¹⁾。特に子どもの社会性については、子どもの問題行動等の増加や事件等をきっかけに、久しく問題とされてきている。子どもの問題行動は、昭和58年の31万7,438人をピークに年々減少傾向にある。しかし、少年による家庭内暴力認知件数の総数は、平成24年から毎年増加していることが報告されている²⁾。

このような児童生徒の問題行動の背景や要因には、①自然や地域社会と深くかかわる機会の減少、②集団活動の不足、③物事を探索し、吟味する機会の減少、④地域や家庭の教育力の低下の4つが指摘されている³⁾。さらに、社会性には、子どもの遊びの変化からの指摘もある。河崎（1996）は、子ども達の三間の衰退がもたらされ、子どもの遊びはそれまでと比べて、「屋内で」、「少人数で」、「受容的な内容で」行われるようになったと指摘している⁴⁾。このことから時代の変化とともに子どもの遊びは、集団から個人、屋外から屋内、さらにはテレビゲームの普及によって現実から非現実へと変化しており、「集団活動」と「直接体験」の機会が減少し

ていると言える。そこで、「集団活動」を友だちや家族、地域の人々と関わる活動、「直接体験」を事物事象に直接触れて考えることと定義した時に、これらの不足は子供の問題行動を増加させる要因の1つになっていると考えられる。

一方、遊びの変化を「遊び時間」、「遊び空間」、「遊び仲間」の三間から捉えた研究もなされている。その中で河崎（1996）は、子どもの遊びの変化の原因として三間（遊び時間・遊び空間・遊び仲間）の減少を指摘している⁴⁾。すなわち、他者との遊びを充実させるためには、三間を増やすことが必要であり、他者との遊びを充実させることは子どもの社会性の育成につながるものと考えられる。

以上のことから、子供の問題行動を減少させるためには、「集団活動」や「直接体験」を充実させる必要がある、その方法は遊びに必要な三間の提供であることが分かった。また、「集団活動」により他者との遊びを充実させることは、子どもの社会性を育成する方法の1つとして有効であると考えられる。さらに、子どもの社会性を充実させることは、子どもの問題行動を減少させる一つの手段になると考えられる。そこで本報告では、学校の教育活動以外で子どもの「集団活動」や「直接体験」を提供する場である児童館を利用している子どもの遊びの実態を調査し、遊びの充実が社会性の育成の一助になることを考察することを目的とする。方法は、三間の観点のうち、「遊び空間」と「遊びに仲間」の2つの

[†] Sakito FUKUDA* and Yoshiaki KAWASHIMA*:
The Study on Enhancement of a Play of
Nurturing Sociality

* School of Education, Utsunomiya University
(連絡先:kawasima@cc.utsunomiya-u.ac.jp 著者2)

観点から児童館における遊びの実態を調査する。なお、「遊び時間」については、学校における教育活動や生活環境に依存するものであり、児童館での調査から実態を把握することは困難であると判断して本報告の調査からは除くこととした。

2. 三間の観点から見た遊び

子どもを取り巻く現在の環境を三間の観点から考察すると、次のように整理することができる。

2.1 遊び時間

遊び時間については、子どもの自由な時間や屋外遊びの時間が減少していることが報告されている⁶⁾⁷⁾。さらに、平日は学校での教育活動の多忙化、習い事や自学などの家庭教育の多様化などが遊び時間の減少の大きな要因になっているものと考えられる。すなわち、現代の子どもは、教育活動や家庭教育の関係から屋外で自由に遊ぶ時間が減少していると言える。

2.2 遊び空間

遊び空間については、子どもが被害者となる犯罪の増加や屋外遊び空間が減少の傾向にあることが報告されている⁸⁾。一方、屋外で思い切り遊びたい子どもが多いことも報告されている。これらのことから、子どもの遊びを充実させるには、子どもの安全性を確保するとともに広い空間が必要であると言える。

2.3 遊び仲間

遊び仲間については、大人数で遊びたいと考えている子どもが多い実態が明らかとなっている⁹⁾。しかし、実態として大人数で遊べない状況にあることが同時に報告されている。これは、遊び空間で指摘した大人数で遊ぶための広い空間が不足していることも要因と言える。さらに、遊び仲間として多いのは同年齢であることが報告されている。その一方で、年齢にかかわらず様々な仲間と遊びたいと思っていることも報告されている。以上のことから、子どもは年齢にかかわらず大人数の仲間と遊ぶことを望んでいると言える。

以上のことから、子どもが求める遊びの要素とは、大人数の仲間と広い空間で遊びたいと考えていることが分かった。そこで、大人数の仲間が集まり、広い遊び空間を提供する場である児童館での遊びの実態を調査し、子どもの「集団活動」や「直接体験」と社会性との関係を考察することとした。

3. 実態調査

3.1 調査目的

実態調査は、遊び仲間と遊び空間の2つの観点ごとに子どもの遊びの実態を調査する。さらに、児童館以外での遊びと比較することで児童館の遊びの有効性や課題を明らかにすることを目的に実施した。

3.2 調査期間と対象

調査期間：平成28年9月2日

調査対象：調査期間中に宇都宮市T児童館に来館した児童24名

3.3 調査概要

実態調査は、Ⅰ回答者の個人情報、Ⅱ児童館以外での遊び、Ⅲ児童館内での遊び、Ⅳ児童館の利用実態や要望の4つの観点で構成した。

4. 結果と考察

実態調査の結果を遊び空間と遊び仲間の2つの観点から考察する。

4.1 遊び空間からみた遊びの実態

①児童館以外での遊び空間

児童館以外における遊び空間を把握するために「いつもどんな場所で遊んでいますか」の質問を行った。回答方法は9つの選択肢からの複数選択式とした。この質問の回答のうち、選択のあった6つの項目の結果を図1に示す。図1に示すように、児童館以外での遊び場として多いのが「自分や友だちの家」(30%)、「公園や広場」(18%)、「学校」(13%)の順であった。

この結果から、子どもは日常的な遊び空間として屋内での遊び(狭空間での遊び)を主体にしていることが分かった。このことは、河崎の報告を肯定する結果と言える⁴⁾。一方、子ども達は広い場所での遊びも求めているものの、安全性の確保や遊び環境の不足などの問題によって遊び空間が制限されていることが分かった。

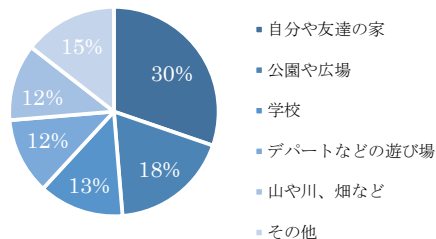


図1 児童館以外での遊び場 (空間)

②児童館以外での遊びの内容

児童館以外での遊びの内容を把握するために「いつもどんな遊びをしていますか」の質問を行った。回答方法は27項目の選択枝からの複数選択式とした。この質問の回答のうち、回答数の多かった6つの項目を図2に示す。図2に示すように、児童館以外での遊び内容として多いのが「コンピュータゲーム」(64%)、「おしゃべり」(34%)、「トランプやボードゲーム」(39%)、「読書(マンガも含む)」(39%)、「おにごっこやかくれんぼ」(それぞれ39%)の順であった。このことから、コンピュータゲームで遊ぶ子どもが最も多いことや比較的体を動かさない遊びが多いことが分かる。これは図1で考察したように、子どもは家の中など狭空間での遊びを余儀なくされており、そのような狭空間でも行える遊びとしてコンピュータゲームやトランプなどの比較的体を動かさない遊びしか行えない遊び環境が影響しているものと考えられる。

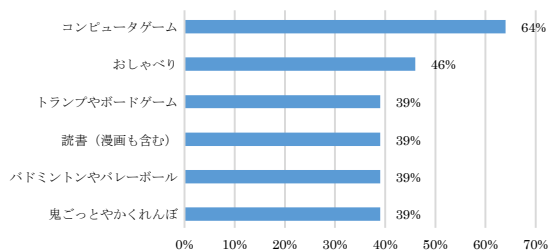


図2 児童館以外での遊びの内容

③児童館での遊び場

児童館での遊び場を把握するために「児童館に来たとき、児童館のどこで遊んでいますか」の質問を行った。回答方法は3つの選択枝からの複数選択式とした。この質問の回答結果を図3に示す。図3に示すように、児童館での遊び場として多いのが「体育館」(93%)、「屋外」(89%)、体育館以外の「室内」(64%)であった。「室内」に比べて、「体育館」と「屋外」が多いことから、多くの子どもは屋外や体育館など広く動き回れるような空間で遊んでいることが分かる。これは、「2. 三間の観点から見た遊び」で指摘したように遊び場(空間)として、広い場所で遊びたいという子ども達の欲求があり、それを満たす場として児童館の環境が適しているからだと言える。さらに、安全性の問題から屋外での遊びを行うことが難しい現代において、安全性が確保された児童館は遊び空間を提供する施設として有効であると

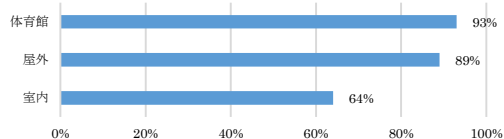


図3 児童館での遊び場

言える。すなわち、児童厚生員が常駐している児童館は、常に大人による監視があり、犯罪などの子どもの安全性を阻害する要因が少なく子どもの自由な遊び空間となっていると言える。

4.2 遊び仲間からみた遊びの実態

①児童館とそれ以外での遊び人数の比較

児童館とそれ以外での遊び仲間の人数を比較するために、次の2つの質問を行った。1つ目は、児童館での遊び人数を問うための「児童館に来たとき、何人くらいで遊んでいますか」の質問、2つ目は、児童館以外での遊び人数を問うための「いつも何人くらいで遊んでいますか」の質問である。回答方法は、いずれも5つの選択枝からの単一選択式とした。これらの結果を基に、児童館とそれ以外の遊び人数の対応を調査した。2つの対応を表1に示す。

表1に示すように、児童館での遊び人数の方がそれ以外での遊び人数より多くなっている子どもが10人(薄い網掛け、42%)いることが分かる。このことから、児童館での遊びでは、遊び仲間が増加する傾向にあることが分かった。特に、3人以上の集団で遊ぶ子どもが増加する傾向にあることが分かった。一方、児童館以外での遊びを3人以上と回答した子ども達に着目すると、児童館での遊び仲間の人数が減少している子どもが4人いることが分かった(濃い網掛け、17%)。このことから、児童館以外での遊び人数が多い子どもは、児童館によって遊び仲間が制限されてしまう可能性があることも示唆された。

表1 児童館とそれ以外の遊び人数の対応

児童館 児童館以外	児童館	1人	2人	3~5人	6~10人	10人以上
1人	1	2	0	0	0	
2人	0	0	4	0	1	
3~5人	0	2	7	0	3	
6~10人	0	0	1	2	0	
10人以上	0	0	1	0	0	

…児童館での遊び人数の方が増えている。

…児童館での遊び人数の方が減っている。

5. まとめ

本報告では、子どもの社会性を育む遊びの充実の必要性を児童館での遊びの実態から考察した結果を報告することを目的としている。調査は、児童館に来館した児童24名を対象に、児童館以外での遊びと児童館での遊びの双方からの実態調査によって行った。その結果から、次のことが分かった。

- ① 子どもの児童館以外の遊びに関して、子どもは広い場所での遊びを求めているものの、安全性の確保や遊び環境の不足などの問題により、「自分や友だちの家」のような狭空間での遊びを余儀なくされていること
- ② 狭空間での遊びは、コンピュータでゲームや体を動かさない遊びに終始し、「集団活動」や「直接体験」の機会がないこと
- ③ 児童館は、安全でかつ広い遊び空間と多くの遊び仲間を提供する施設として地域の中で有効に機能していること

一方、児童館は、地域の中で限られた場所にしかないため子どものみで利用することが難しいという面もある。そのため、普段の遊びの中で比較的大人数で遊ぶ機会の多い子どもは、児童館に来ることによって遊び仲間が制限されてしまう可能性も示唆できた。

以上のことから、「子どもが安全で自由に遊べる屋外空間、または屋外のように動き回れる空間」が必要であると言える。また、遊び仲間と遊び空間を適切に子どもに提供する環境は、「集団活動」と「直接体験」の機会を子どもたちに提供する場として有効であることも分かった。さらに、遊びをとおした「集団活動」によって仲間意識を高め、「直接体験」による体験的な遊びは、子どもの社会性を育成するのに有効である可能性が示唆できた。今後は、より多くの児童館において遊びの実態を調査するとともに、社会性の育成を図る評価方法の検討などを行っていきたい。

参考文献

- 1) 松村明：大辞泉第一版,小学館（1995）
- 2) 法務省：平成27年版犯罪白書,
<http://hakusyol.moj.go.jp/jp/62/nfm/mokuji.html>（最終アクセス日2016.12.14）
- 3) 文部科学省：体験活動事例集－体験のススメ－[平成17, 18年度 豊かな体験活動推進事業],

http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/seitoshidou/04121502/055/003.htm（最終アクセス日2017.1.18）

- 4) 河崎道夫・他：新しい世紀における遊びとその役割,日本教育心理学会総会発表論文集38,(1996)
- 5) 立柳聡:子どもの社会教育と児童館- 試論的考察 - その2:「コドモの社会教育」施設としての児童館-,明治大学社会教育主事課程年報8,pp.38-35(1999)
- 6) 文部科学省「子どもの学校外での学習活動に関する実態調査報告」
http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/20/08/_icsFiles/afieldfile/2009/03/23/1196664.pdf
（最終アクセス日2017.1.17）
- 7) ベネッセ教育総合研究所:第1回 放課後の生活時間調査 [2008年]
<http://berd.benesse.jp/shotouchutou/research/detail.php?id=3196>（最終アクセス日 2017.1.17）
- 8) 警察庁:特集II 子供・女性・高齢者と警察活動 ,<https://www.npa.go.jp/hakusyol/h25/honbun/html/pf221000.html>（最終アクセス日2017.1.17）
- 9) 熊本県子どもの遊び実態調査報告書 ,<http://kyouiku.higo.ed.jp/shougai/004/002/>（最終アクセス日2017.1.17）

平成29年3月31日 受理